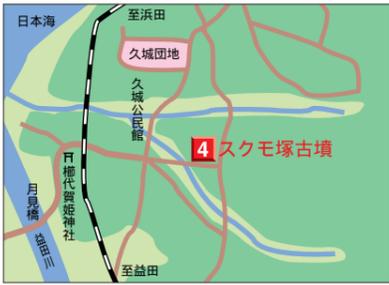


4 スクモ塚古墳 国指定

益田市久坂町



全長一〇メートル、県内最大級の前方後円墳とも考えられている古墳です。しかし、この古墳は後円部と前方部の間が著しく低くなっており、径六〇メートル近い大型の円墳と方墳が隣接したものと考えたほうが良さそうです。  
墳丘の表面には置石が見られ、円筒埴輪も巡っており、石見を代表する大古墳です。



5 白上古墳 市指定

益田市白上町



高津川の支流である白上川沿いにある古墳です。石室の平面形は細長く、石室入口付近は天井石が一段下がり、両側壁に突出した石が見られることから、両袖式の石室と思われる。石見地域では、総じて無袖式の石室が多いのですが、鶴ノ鼻古墳群などにも見られるように、益田地域では袖を持った石室が多数分布しています。



6 小丸山古墳 市指定

益田市乙吉町



周溝を持つ大型前方後円墳。全長五六メートル、石室第三位の規模を持つ前方後円墳です。墳丘は前方部の幅が広く、周溝が巡っています。この古墳は一九八七年に後円部が破壊されました。このとき、山陰では初めての出土例となった鈴杵葉や馬鐙などが採取され、現在、復元整備されています。



エリア10 石見山間西部

高津川と益田川の上流域であるこの地域は、古墳の数はあまり多くありません。とくに古墳時代前半の古墳の様子はよくわかっておらず、今後の調査に期待されます。しかし六日市町の大谷原古墳や美都町の三谷古墳群など、横穴式石室をもつ後期の古墳は各小平野ごとに見られ、その様相は江の川流域と同様、山陽地方の山間部の影響があるようです。  
このような地域では各小平野が川で結ばれていることが多く古墳を調べることで、当時の地域間交流がつかやすすくなるかもしれません。



1 抜月古墳 町指定

鹿足郡六日市町抜月



鹿足郡で初めて発見された古墳で、地元では石積古墳とも呼ばれています。現在、墳丘はほとんど残っており、横穴式石室が丸見えの状態です。石室は、もとは一四メートル以上あったと推定され、中から直刀や糸つむぎ用の紡錘車、須恵器の壺などが出土しています。墳丘の様子はわかりませんが、石室の石組方法がよくわかる古墳といえます。



2 大谷原古墳 町指定

鹿足郡六日市町大石



この古墳も墳丘は流失しており、石室の下半部のみが残っています。奥に立っている大きな石は奥壁で、石室の元の高さを知る手がかりです。石室内からは過去に大刀や勾玉などが出土しており、当時の有力者が葬られていたものと考えられています。案内板・説明板とも設置されており、すぐに見つけるは。



3 社寺脇古墳 町指定

鹿足郡日原町池村



一九七四年一〇月、道路工事の際に見えられた横穴式石室が埋没しているのか、残念ながら取材時には確認できませんでした。  
この横穴墓からは、七世紀ころのものと思われる長頸壺と呼ばれる須恵器が出土しており、これは日原町の歴史民俗資料館で見ることが出来ます。



4 三谷古墳群 町指定

美濃郡美都町三谷



益田川支流の三谷川沿いにある古墳群で、二つの横穴式石室が隣接して築かれています。いずれも保存状態はよく、玄室から羨道部までが直線的な無袖式の石室です。古く開口した石室の場合、副葬品が失われていることが多いのですが、この古墳群からは土器が発見されており、その形から七世紀に築造されたことがわかっています。



5 江田古墳

美濃郡匹見町江田



石西山間部を代表する横穴式石室。匹見川の流れる狭い谷あいを通った、匹見の町並を見下ろす丘陵斜面にあります。小さな横穴式石室があり、ほぼ元の形を残しています。入口から奥壁まで直線的につながり、玄門のない無袖式の石室であることがわかります。石室構造が不明な横穴式石室が多い石見において、この古墳は貴重な存在です。



エリア11 隠岐島前

隠岐島前は西ノ島、中ノ島、知夫里島の三つの大きな島に分かれています。古墳はいずれの島にもありますが、分布は内海側と本土側に偏り、外海側には少ないようです。  
島後と同じく横穴式石室や横穴墓が多く見られますが、前方後円墳がほとんどないのが島後と大きく違う点です。今このところ隠岐最古の古墳とされる海士町の新開古墳群、玉類を二〇個以上も出土した知夫村の高津久横穴墓群など、注目すべき古墳もあります。  
島前のように海によって明確に三つの地域に分かれる場合、古墳を調べることで、古墳時代にそれぞれの島がどんな関係にあったのか推定しやすいという、本土にはないメリットがあります。島後との関係も古墳によってわかるかもしれません。

